

平成 27 年度事業計画書

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

はじめに

『子供の時代に子供らしい体験を重ねること、四季折々の変化を体で感じながら心を耕していくことは、人間が成長していく上で欠かせない貴重な財産であるに違いない』

この財団設立の理念の基に「子ども自然体験塾」を実施してから 10 年目を迎えます。また、公益財団法人移行認定後 5 年が経過しました。

前年度は新規活動として「出前子ども自然体験活動」を新たに立ち上げ、加えて普及活動の一環としての「青山慎一先生の子ども世界の昆虫館」の部分開館にこぎ着けることができました。

本年度も引き続き、子供達の健全育成に寄与するために、北海道の豊かな自然と文化を生かし“自然界の仕組みや命のつながり”について、自然観察や標本採集をとおして科学的に物事を考える態度を育てる活動を、子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)の助成金の交付を受け「子ども自然体験塾」の継続実施、更に北海道青少年活動助成事業(一般財団法人青少年科学文化財団)からの助成を受け、中の島地域を流れる都市河川を活動場所として、“精進川の水生生物の命のつながり”をテーマとした「出前子ども自然体験活動」を実施します。

加えて普及に係る活動として、昆虫塾塾長である青山慎一先生の蝶・昆虫の個人コレクション 10 万頭のデジタル化「青山慎一先生の子ども世界の昆虫館」の充実を図り、その他活動の様子をHPで紹介する「活動のようす(スライド)」も継続実施します。

以上のことを踏まえ事業計画を策定しました。

事業ごとの計画は、次頁以下のとおりです。

1、定款第4条第1項第1号に掲げる事業を次の計画により実施する。

(1) 自然体験活動の主催事業（公益目的事業1）

ア、子どもゆめ基金助成活動

①活動名 「子ども自然体験塾」

○青山慎一先生の『昆虫』不思議発見！（昆虫塾）

（活動のねらい）

身のまわりの虫たちの多彩なドラマや珍奇な生態、不思議な習性の観察をとおりして、生命の素晴らしさ、自然の素晴らしさを味わうことにより、豊かな感性を育みます。又、自然界における虫の果たしている役割や進化の過程を学ぶことにより科学的に物事を考える態度を育てます。

- ・塾長 青山慎一先生（蝶類愛好家・元日本鱗翅学会）
- ・講師・指導者 外部 7名、財団 3名
- ・募集人員 子供 30名×2回＝延べ60名
- ・実施日 7月5日（日）・7月26日（日）
- ・参加費 1,000円
- ・活動場所 野幌森林公園周辺、自然ふれあい交流館、西岡水源地、
北方自然教育園
- ・具体的なプログラム
 - ・昆虫観察・採集
 - ・青山慎一先生のお話「昆虫の自然界における役割」
 - ・昆虫標本作成

○鈴木哲夫館長の『地球』不思議発見！（地球塾）

（活動のねらい）

日本は火山国です。火山は人類にとって自然災害を引き起こすこともあります。天然資源等の恩恵をもたらします。鉱山跡を見学し、その周辺の鉱石等を採取・観察しながら、火山活動とどんな関係にあったのかを考察します。又、火砕流堆積物の産状から当時の火山噴火の状況を想像させ、火山活動でできた地形をどのようにうまく利用したのかを学習します。

- ・塾長 鈴木哲夫館長（山の手博物館）
- ・講師・指導者 外部 8名、財団 3名
- ・募集人員 子供 28名×2回＝延べ56名
- ・実施日 8月30日（日）・9月6日（日）
- ・参加費 1,000円

- ・活動場所 石山緑地、黄竜鉱山、水明峡台地、美々地域、手稻鉱山、山の手博物館
- ・具体的なプログラム
 - ・鉱石・岩石の採取体験
 - ・火山活動による地形の観察
 - ・採取した鉱石等の鑑定及び標本作成

○森の番人・薄井五郎博士の『森と生き物のつながり探し』（生き物塾）

(活動のねらい)

昆虫や野鳥など森の生き物を利用して、身を守ったり、花粉や種を広めたりする樹や草にとっては、たくさんの種類の生き物が住んでいると好都合です。そのためには、いろいろな種類の樹や草が生えている森林が望ましいのです。この体験塾で森林の違いにより生息する鳥獣や昆虫の活動が違う様子を体感し、森と生き物とは互いに欠かせないパートナーであることを学習します。

- ・塾長 薄井五郎博士（日本野鳥の会・農学博士）
- ・講師・指導者 外部 7名、財団 3名
- ・募集人員 子供 20名
大人 10名
- ・実施日 10月4日（日）
- ・参加費 500円
- ・活動場所 道民の森
- ・具体的なプログラム
 - ・子孫を増やす術を知ろう
 - ・「森」を見る眼を養おう
 - ・樹を植えよう

○佐藤和利元館長の『オホーツクの海と山』in紋別（オホーツク塾）

(活動のねらい)

先人（アイヌ）の暮らし方を学び、昔の道具を使った仕事体験や地引網体験、石器づくりをしながら、自然からの恩恵や工夫の様子を体験し、厳しい自然とどう向き合ってきたのかを学ぶことにより、自然との共生の大切さを子ども達と共に考えます。

又、宿泊体験をすることにより協調性や自立心を育み、人間同士の助け合いや思いやりを大切にする自力（みずからりよく）の向上をはかります。尚、日記及び感想文を書かせることにより自分を見つめなおす習慣を身につけさせます。

- ・塾長 佐藤和利元館長（考古学者・紋別市立博物館）
- ・講師・指導者 外部 12名、財団 2名
- ・募集人員 子供 32名

- ・実施日 7月30日(木)～8月2日(日)(3泊4日)
- ・参加費 20,000円(札幌発着)
- ・活動場所 オムサロ遺跡公園、ホワイトビーチ、道立流水科学センター、上藻別駅通所、紋別市立博物館
- ・具体的なプログラム
 - ・昔の仕事体験、石器作り体験
 - ・地引網体験と魚や流水学習
 - ・宿泊体験

○事業費	[総額]	<u>3,612,620円</u>
	[収入]	<u>2,881,100円</u>
	・参加費	713,000円
	・助成金(子どもゆめ基金)	2,168,100円(予算計上額)
	(財団負担金)	731,520円)

○助成金応募先(申請中)

子どもゆめ基金(独立行政法人国立青少年教育振興機構)

○名義後援(予定)

札幌市・札幌市教育委員会

紋別市・紋別市教育委員会(オホーツク塾のみ)

○募集範囲 札幌市内及び周辺市町村

○募集対象 日帰り型 小学3年生から6年生
生き物塾は保護者も対象

宿泊型 小学4年生から6年生

○募集方法 札幌市内及び当別町内小学校へチラシ配布(公募)

イ、出前自然体験活動(北海道青少年活動助成事業)

①活動名 「出前子ども自然体験活動」

○守屋 開先生の精進川の水生生物と命のつながり

(ねらい)

精進川に生息する水生生物の採集・観察・分析をとおして、自然界の仕組みや命のつながりについて学び、自然を守る大切さを実感させます。

実施にあたっては地域住民の協力を得ながら行います。

- ・講師 守屋 開先生(札幌市青少年科学館学芸課専門職、前旭丘高校長、日本生態学会員、日本陸水学会員)
- ・募集人員 子供 30名程度
- ・実施日 8/8(土)(雨天の場合は1日順延)
- ・参加費 無料

- ・活動場所 精進川河畔（中の島）、中の島小学校理科室
- ・具体的なプログラム
 - ①水生生物の採集
 - ②水生生物の観察・同定
 - ③水生生物の分析

○事業費	202,340 円
○助成金応募先	一般財団法人青少年科学文化財団
○名義後援	札幌市、札幌市教育委員会
○協力	中の島小学校、中の島一区第3町内会
○募集範囲	中の島地区を中心とした札幌市内並びに「子ども自然体験塾」参加者
○募集対象	小学4年から6年生及び中学生 並びに家族同伴の小学3年生以下の児童
○募集方法	中の島小学校児童へのチラシ配布及び「子ども自然体験塾」参加者へのDM

ウ、自然体験学習の普及に係る情報発信活動

①青山慎一先生の世界の昆虫館

（ねらい）

私たちの身の回りの自然界には多様な生物が命のつながりをもっています。

その中でも昆虫類は現在生存している全動物の80%を占め、名前の付けられているものの数は100万種とも120万種ともいわれています。（昆虫塾テキストから引用）

昆虫塾塾長の青山慎一先生は世界の蝶・昆虫の個人コレクション10万頭を誇る日本有数のコレクターです。青山先生の蝶・昆虫の標本をデジタル化し、Webにて公開します。

・具体的な活動

青山慎一先生（昆虫塾塾長）の蝶・昆虫の個人コレクション10万頭のデジタル化を図りホームページ上で紹介する。今年度はチョウ300箱程度。

○事業費	435,000 円
------	-----------

②当財団主催事業の活動紹介

平成22年度から「子ども自然体験塾」の活動の様子をホームページの「活動のようす（スライド）」欄での紹介を継続実施する。

○事業費	0 円
------	-----

以上